

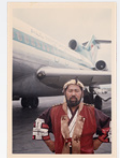
アイヌ民族

国立アイヌ民族博物館 第11回特別展示

博覧会と

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)

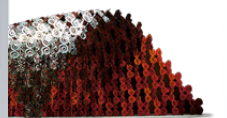
第4章



⑥



⑤



⑦



⑧

第3章

1970 日本万国博覧会(大阪万博)

1950 北海道開発大博覧会

1904 セントルイス万国博覧会
1903 第五回内国勧業博覧会

第2章

第1章



①



②



④

③

1873 ウィーン万国博覧会
1872 湯島聖堂博覧会

2026 (sat) 6/20 - 8/23 (sun)

国立アイヌ民族博物館

—150年の経験—
The Ainu and the Expositions
150years of experience

「様々な立場や状況、思いが交錯する場」

その状況をどう捉えたか

展示する側の視線

見る側と見られる側

出場する理由

どのような関係性や状況で出場

個人にとっての博覧会

博覧会はどうような場なのか



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



①『近世蝦夷人物誌』二編巻之中 松浦武四郎著 1858年 国指定重要文化財 松浦武四郎記念館蔵 ②古今珍物集覧 一曜斎国輝画 1872年 当館蔵 ③学術人類館集合写真 1903年 当館蔵 ④世界人類風俗人形 坪井正五郎・松村陸選定 井上清助作 1910~1913年 東京大学総合研究博物館蔵 ⑤山丹錦 立教小学校蔵(国立アイヌ民族博物館寄託) ⑥大阪万博に向かう途中の空港にて(山田富三) 1970年 個人蔵 ⑦Singing for the Future 藤戸康平作 2025年 当財団蔵 ⑧大阪・関西万博でのアイヌ舞踊公演時の儀礼の様子 2025年 当財団蔵 ⑨大阪・関西万博でのアイヌ舞踊公演時の会場全体の様子 2025年 当財団蔵 ⑩第五回内国勧業博覧会正門写真 1903年 当館蔵

主 催：公益財団法人 アイヌ民族文化財団 民族共生象徵空間運営本部 国立アイヌ民族博物館、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

特別協力：公益社団法人北海道アイヌ協会

協 力：尼崎市立歴史博物館、板橋区立郷土資料館、大阪府、株式会社乃村工芸社、川村カチアヌ記念館、京都府立京都学・歴史館、公益財団法人大阪日本民芸館、公益財団法人石水博物館、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、国立公文書館、札幌市、市立函館博物館、東京国立博物館、東京大学総合研究博物館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、日本民藝館、函館市中央図書館、北海道エアポート株式会社、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、北海道大学附属図書館、北海道大学附属図書館、北海道伊達市教育委員会、北海道博物館、幕別町教育委員会、松浦武四郎記念館、松本市立博物館、立教小学校、立教大学立教学院史資料センター、Library of Congress

アイヌ民族と博覧会

—— 150年の経験 ——

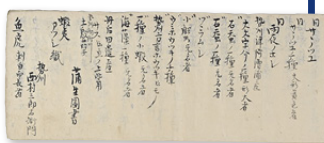
1872(明治5)年の湯島聖堂博覧会に初めてアイヌ資料が出品されてから、2025(令和7)年の大阪・関西万博に至るまでの、およそ150年にわたってアイヌ民族がいかに博覧会と関わりをもってきたのかを紹介いたします。明治以降、日本国内外で開催された数々の博覧会におけるアイヌ展示は悲しい歴史として伝えられている一方で、時代を経るごとに主体的に参加するアイヌ民族も出てくるなど、博覧会そのもののあり方も変化してきました。本展覧会は、博覧会と関わりを持ったひとりひとりの「声」に焦点を当て、喜びや悲しみ、経験と記憶、さらには時の情勢やそこに関わった人たちの差別心や優越感を含んだまなざしや力学を丁寧に解きほぐしていくことによって、個人にとっての博覧会がいかなるものであったかに迫ります。

第1章

和人社会で異域の産物として関心を集めたアイヌ工芸品、明治初期の博覧会での北海道「開拓」と産業振興の文脈への再編。



アイヌ工芸品展示の草創期から博覧会へ



日本の植民地拡大を背景として、人の生活そのものを観覧させる「人間展示」の対象となったアイヌ民族。

第2章

アイヌ民族の出場



戦後社会のなかで、変化する博覧会のあり方、主体化するアイヌ民族の博覧会への関わり、そして表現するアイヌ文化。



現代のアイヌ文化を表現する場を通して紡がれる人と人のつながり、連鎖する思い、文化の継承の回復。

第3章 アイヌ文化を見せていく時代

第4章 アイヌ民族と博覧会のゆくえ

①山本読書室物産会目録「天保四年癸巳物産会品目」1833年 中井立美蔵(京都府立京都学・歴史館寄託) ②明治十年内国勸業博覧会列品写真帖 1877年 尼崎市立歴史博物館蔵 ③拓殖博覧会での貝澤ウエサナン 1912年 当館蔵 ④盆 貝澤ウトレントク作 個人蔵 ⑤北海道大博覧会での写真 1958年 個人蔵 ⑥ミンタラ 川村則子作 1988年 公益社団法人北海道アイヌ協会蔵 ⑦大阪・関西万博のアイヌ舞踊公演時に加藤峻也が着用した衣服 個人蔵 ⑧Singing for the Future 藤戸康平作 2025年 当財団蔵

関連イベント
各イベント13時30分開始

講演会

7月5日(日)	博覧会と海外アイヌ・コレクション 山崎幸治(北海道大学アイヌ・先住民研究センター センター長)
7月20日(月・祝)	明治初期の地方博覧会とアイヌ工芸品 三浦泰之(北海道博物館 学芸部長)
8月2日(日)	曾祖父 辺泥五郎の話と私の話 辺泥敏弘(樺太アイヌの伝統弦楽器トンコリの製作・演奏家) 司会:立石信一(国立アイヌ民族博物館)

トークイベント

7月25日(土)	大阪・関西万博でのアイヌ舞踊公演の舞台作りを経験して 山道響、藤岡千代美、酒井学(大阪・関西万博 アイヌ舞踊公演 舞台監督) 聞き手:川上さやか(国立アイヌ民族博物館)
8月1日(土)	アイヌ文化の表象をめぐる 野本正博(国立アイヌ民族博物館 館長)、立石信一(本展覧会代表)、川上さやか(本展覧会第4章担当)
8月11日(火・祝)	大阪・関西万博でのアイヌ舞踊公演を終えて 加藤峻也、早坂駿(大阪・関西万博 アイヌ舞踊公演 出演者) 聞き手:川上さやか

ギャラリートーク

6月20日(土)	アイヌ工芸品展示の草創期から博覧会へ 内田順子(国立歴史民俗博物館 副館長)
7月11日(土)	関口由彦(国立アイヌ民族博物館)
8月8日(土)	日英博に出場した曾祖母 貝澤きんについて 小沼史子(民族共生象徴空間運営本部 伝承課主任) 聞き手:立石信一
8月9日(日)	是澤櫻子(国立アイヌ民族博物館)
8月16日(日)	田村将人(文化庁 アイヌ文化振興調査官)

※敬称略



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM AND PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館は
民族共生象徴空間(愛称「ウポポイ」)内にあります。

休館日 月曜日 ※6月22日、7月20日、27日、8月10日は開館、7月21日(火)は休館
料 金 国立アイヌ民族博物館の観覧料は、
民族共生象徴空間(ウポポイ)の入場料に含まれます。
●民族共生象徴空間(ウポポイ)の入場料(税込)

	個人	年間パスポート
大人	1,200円(960円)	2,000円
高校生	600円(480円)	1,000円
中学生以下	無料	

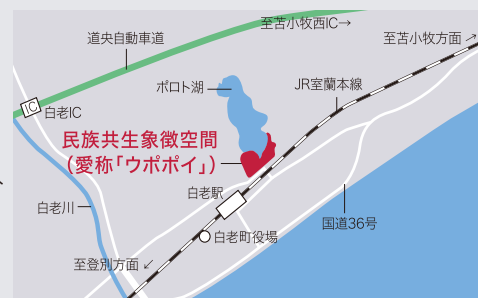
※()は20名以上の団体料金。*障害者とその介護者各1名は無料です。
入園の際に証明書等をご提示ください。*最新の情報は、ウェブサイトからご確認ください。

アクセス 札幌から約1時間、
新千歳空港から約40分
●乗用車…白老インターから車で約10分
●電車…JR白老駅から徒歩約10分
電車を利用してウポポイへご来園の方は、
「白老町交流促進バス」のご利用が便利です。

所在地 北海道白老郡白老町若草町2丁目3-1



さらに詳しい情報を
ウェブサイトから
ご覧いただけます。



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館